



皆さんは、「里海」という言葉を知っていますか？

私たちは昔から、海の恵みを受けて暮らしてきましたが、今、「海と人とのつながり」が失われてきています。

私たち「里海コンシェルジュ」は、海と人とのつながりを取り戻しながら、「美しい海」、「生物が多様な海」、「交流とにぎわいのある海」を目指し、里海づくりが県内全域にもっと広がるように、様々な活動を積極的に行っています。

そんな私たち里海コンシェルジュが出会った、里海づくりを共に盛り上げる素敵な仲間たちを、皆さんに紹介していきます。

「100年先も美味しい魚を食べ続けてほしい」  
と願う底びき網漁師 西谷明さんのお話②

「漁師は天職や！」西谷明の『漁師道』編

高松市瀬戸内漁業協同組合 副組合長 西谷明さん

かがわの里海コンシエルジュが今回お伝えするのは、「香川県方式の海底堆積ごみ回収・処理システム」にも積極的に取り組んでいる、「前向き」な、そして「海を愛する」漁師さんのお話の続編です。

西谷明さん(68歳)は、高松市瀬戸内漁業協同組合に所属する底びき網漁師(写真1)。静岡県沼津で養殖業に携わったのち、29歳で高松に帰郷し、父親の跡を継いで底びき網漁師になりました。今回は、前回の記事で書ききれなかったお話の中から「西谷さんが漁師になったきっかけ」をご紹介します。

(里海コンシエルジュ)「西谷さん、漁師になったきっかけを教えてください」

(西谷さん)「漁師になったのは『たまたま』なのよ。うちは代々、漁師の家系で、小学生になると、休みのたびに船に乗せられるんだけど、いつも船酔いして苦しくてね。高校に通わないと漁師にさせられると思って、高校へ行って。大学も県内に進学したらまた休みの時に船に乗せられると思って、県外の大学へ行った。もともと自然科学や地球科学に興味があったから、海洋地質の学科に入ってね」

(里海コンシエルジュ)「ええ〜！漁師の息子さんだけど船が苦手だったりあるんですね、意外です」

(西谷さん)「あの時代は、大学卒の就職先が引く手あまたで。自分にも7つも8つもの会社から声がかかった。だけど、友達から『人出が足りん、一年でいいから手伝ってくれ』と言われ

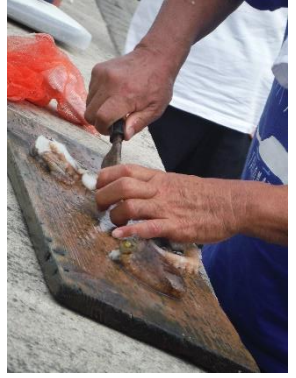
て、それで『まあ、一年くらいならいいか』と、静岡県沼津で養殖をやり始めたんよ。でもひと月も経たないうちに、『魚の仕事は俺の天職や』と思った。魚の状態を毎日見ているデータをとって、さらにエサを決めて：毎日飽きなかったし、何よりも楽しかった。ある時、ハマチの稚魚がいっぱい死んで。なんでかなって、見てある時気が付いた。エサをあまりやらない方が病気になるぞと。魚の仕事(写真2、3)は退屈しないよ。いろんな問題が起こるけど、だからこそ退屈しない。退屈しないのが人生で一番良い」



【写真1】

【写真1】西谷さんは、底びき網でエビ、アナゴ、シタビラメ、マコガレイなどを漁獲されているそう。写真は、かがわ里海大学「海・山の幸講座」2016年8月27日にて、その日に獲れた魚を見せてくれた時のもの。セトダイやシマゲタが元気に泳いでいます。

日々、魚の生育のためのデータを取りながら、西谷さんの観察眼でもって問題を解決していく姿は、まさに「学者肌」だど、西谷さんのお話をお聞きしながら思いました。西谷さんは「とんでもない」と否定されますが、ここでふと、疑問が湧いてきました。この記事を読んでいる皆さんもお気づきですか？



【写真2】



【写真3】

【写真2】「海・山の幸講座」では、獲ってきたマダコをその場でさばいてくれました。吸盤が口の中でひつつく！とびっくりしながらも、新鮮で美味しい！

【写真3】同じく「海・山の幸講座」にて、鱧(ハモ)の歯がどれくらい鋭いのかを説明しながら、受講生の皆さんに見せて下さる様子

(里海コンシェルジュ)「ところで西谷さん、確か『船酔いが苦しくって漁師になりたくなかった』って、おっしゃってましたよね？」

(西谷さん)「ああ、船酔い？知らぬ間に治ってた(笑)」

(里海コンシェルジュ)「ええ？知らぬ間に治ってたなんて、そんなことあるんですか(笑)」

(西谷さん)「大学の時には治ってた(笑)。大学のフィールド調査は、地質調査だから山がメインだったんだけど、ある時、船を使った実習があって。その時に最後まで船酔いしなかったのが3人だけで、その中に自分も入ってたんですよ。それで自分がみんなの分も、調査用計器を確認する役目を引き受けたんですよ。み

んなの昼食に出る肉と引き換えにね(笑)。それに船に乗って命の危険を感じたら、船酔いなんかかしてられないしね」  
(里海コンシェルジュ)「なるほど(笑)、いつの間にか船酔いを克服していたと(笑)。その結果が、『たまたま』漁師になったということにつながるのですね」

西谷さんの漁師になりたくないという一念からの『寄り道』が、西谷さんにとって功を奏したのだとわかりました。人生の先輩から深い話が聞けて、西谷さんの『漁師道』に感心していると、あら？またまた、文字数の制限がいつぱいになってしまいました。次回は、漁師西谷さんの『ソウルフィッシュのお話』で大団円の予定です。皆さんお楽しみに！



【写真4】

【写真4】「ここからの景色が好きなんよね」と高松市瀬戸内漁協の二階から海を見ながら、お話を聞きしました。